

## 主題

# 自ら生み出す学校支援

～我ら学校応援団～

岐阜県安八郡神戸町立神戸小学校 PTA  
会長 峠 博久

### 1 はじめに

本校は明治6年の学制に始まる開校150年に迫る歴史ある小学校である。また、日吉神社の例祭である神戸山王まつりが有名であり、門前町として発展した本町商店街を有する地域に根ざした校区である。

学校では、地元の夜叉ヶ池伝説にまつわる物語を劇や太鼓、歌で表現したり、祭りに太鼓で演奏したりして、地域と密接に連携した特色ある活動が行われてきた。



しかし、昨年度はコロナ禍において、それらの活動が思うように実施できなかった。また、PTA会員が学校に集まって活動することも難しくなった。

神戸町では、今年度コミュニティースクールが始まる。学校運営協議会の委員として、現PTA会長が委嘱された。それは、地域の学校応援団の一員として、PTAが学校と今まで以上に連携・協力して学校とその教育活動を支える存在になることが期待されているのだと考える。

昨年度同様、あれもこれもできないと1年

が過ぎてしまうのではなく、今まで積み重ねてきた活動のよさを生かし、安全に配慮しつつ、子どもたちのため、PTA会員が主体的に学校を支援できることは何かということを探求して進めてきた実践をここに述べることにする。

### 2 実践

#### (1) 安全推進活動

##### ① 挨拶運動

例年、4月のPTA総会で会員に呼びかけ、毎月1日、15日2か所の校門に立って、登校してくる子どもたちに挨拶をしてきた。また、10月には強調週間を設けて、集中的に挨拶運動を盛り上げてきた。これらは、神戸町学連PTAでも、全町あげて挨拶運動に取り組む一環である。

昨年度より、コロナ禍において会員が参加することは控えてきたものの、世の中の動向を見据え、今年は登校時においてはPTA本部役員のみで少しずつ始め、各会員は地域や家庭で意識を高めるように、啓発するメールや文書を出してきた。



## ②自転車点検

自転車の事故は後を絶たない。自転車の事故は、被害者にも加害者にもなり得る。従って、自転車整備に努め、ルールを守って自転車を使用できるように、保護者が子どもに働きかける必要がある。

以前は、一堂に会して業者を呼んで自転車点検を行っていた。しかし、受け身や消極的な姿であったので、それぞれの家庭でしっかりと点検して、整備すると共に、それを機会として各家庭で自転車の乗り方について話し合うことで、安全を自分事としてとらえられると考えた。そこで、点検項目の用紙を全校配付し、地元の自転車業者と連絡を取り、点検整備を行うように活動を変えた。また、学校では同時期に交通安全教室を行い、交番長や安全サポーターの話聞き、交通安全に対する児童の意識を高めた。



## (2) 学習支援活動

### ①読み聞かせ ムーミンの会

今年度、読み聞かせボランティアであるムーミンの会は新会員を1名迎え、24名でスタートした。この会は、朝活動の時間帯に読み聞かせを行ってきたが、今年度より学校の日課が変わり、朝の会の中で行うこととなった。昨年度は一年間コロナ禍において、読み聞かせの活動を休止しつつも、おすすめの本の読み聞かせを録音したCDを用意して昼の放送で流したり、おすすめの本の紹介を掲示物にして図書室前に貼ったりし

た。



今年度は、教室の換気を十分に行い、近くに集まりすぎないよう気をつけて、子どもたちと対話しながら本の楽しさを味わうようにした。

### ②印刷ボランティア

学校職員の働き方改革に伴い、子どもたちに向き合う時間を先生方に確保してもらおうと、PTAがとして、印刷ボランティアを提案した。

この活動では、毎日の授業に使う学習プリントや書写の手本、さらには校区全体に全戸配付する学校便りの印刷など、実に多くの印刷物があることを知った。そこで、学校便りの発行に時期を合わせて、毎月定期的に学校を訪れ、半日程度印刷業務を行ってきた。ボランティアの輪は少しずつ広がり、その時々、都合のつく者が無理のないように活動できている。

学校の多様なニーズに応じられる体制づくりに努めるとともに、会員同士の心のつながりや一体感が生まれることを願い活動を積み重ねている。



### ③授業支援

#### a ミシンサポーター

家庭科など実技のある教科においては、個別の支援が必要であり、安全面にも配慮しなければならない。担任の先生だけでは、なかなか個に応じた指導が行き届きにくいのが現状である。したがって、学校のミシンの糸調子等を事前に調整し、安心して授業に向かえるように準備した。また、縫い物が得意な会員が、授業の中で子どものつまずきに応じて支援することで、子どもが意欲的に学習し、作品作りの効率が上がった。担任の先生にも、子どもにも大変喜ばれている。



#### b 校外学習引率

特に低学年は、徒歩で校外学習に出かけることが多い。たとえば生活科では、公園や神社などに訪れることがある。担任や支援員の先生方の人数には限りがあり、安全面において、さらなる支援が必要である。行き帰りの交通安全、行き先での活動面でも多くの目で子どもを見守ることにした。

#### c 校区祭 地域講師

毎年、11月の土曜日に校区祭が行われる。地域講師を招いての授業参観となる。昨年度はコロナ禍において実施できなかったが、今年度は、安全対策をして行う予定である。

1, 2年の昔の遊びは、コミュニティー

スールの一環として、地域の中から講師を探した。また、3年の大豆栽培4年の環境学習、5年の福祉教育ではそれぞれJA, エコプラザごうど、社会福祉協議会など地元の団体が支援している。6年生に関しては、キャリア教育として、地元の協力もと、神戸町商店街の職業について、豊職人、瓦職人、製本業など、実物や実績、講師の語りから学ぶ機会とすることができた。



### (3) 環境支援活動

#### ①奉仕活動

PTA 副会長二名のうちの一名が奉仕作業の担当である。学校の環境整備を全 PTA 会員に呼びかけて、年に1回夏休みに行っている。しかし、昨年度は、コロナ禍のため、全会員に呼びかけることは控え、地域の団体「青年のつどい」のボランティア活動と連携して、本部役員を中心に一部の PTA 役員が運動場の除草と溝さらいを行った。今年度も、学校のニーズに合わせて、参加者と内容、時期を考慮して、安全に行いたい。



## ② 備品購入

PTA では、その財源で、毎年、子どもに必要な備品を購入している。一昨年度は、熱中症対策としてミストファン、昨年度は、大型冷扇機であった。どちらも暑い夏に、児童が安全に学校生活を送れるように必要な物を購入した。今年も、子どものためになる環境整備に役立てればと考える。



## 3 成果と課題

神戸小学校 PTA が学校応援団として活動してきた成果として 3 点、課題として 2 点以下に述べる。

○長年継続してきた PTA の活動を、コロナ禍に

おいても、感染対策をしながらできるやり方で継続することができた。

○学校職員の働き方改革を理解し、学校のためにできることで支援していこうとする主体的な取組ができた。

○支援ボランティアの輪を個人的な声かけで少しずつ広げることができた。

▼昨年度の校務サポーター人材バンクが十分に生かされていない。校務サポーターの募集を学校発信ではなく、PTA が発信を行いたい。また、校務支援内容についてアイデアを出し合う場をもちたい。

▼学校が必要なときに、必要な人を提供できる体制として、コーディネートする PTA 側の人材が必要である。学校側から教頭、教務主任が個別に依頼するのではなく、コミュニティースクールの主体的な活動になるよう

に検討したい。

## 4 おわりに

今まで学校に PTA 会議室はなかった。しかし、今年度、PTA の会議室として、学校の会議室を提供され、自由に学校に集まって活動ができることとなった。

今後、この会議室を拠点として、環境整備し、互いに意見を出し合いながら、学校や子どもが一番近くにいるよき理解者として活動したい。

主体的に活動するためには、PTA 活動が自立しなければならない。できることから、無理のない範囲で、間口を広げつつ、子どもたちのために会員だれでも学校支援に参加できる仕組みをつくることに PTA として尽力していく。

